

FY 2023 Final Report

Project Name: カンボジアにおける保健教員養成事業

Organization Name: 国立大学法人東京学芸大学

2023 年度のプロジェクトの活動レポート

要約

2023 年度は、以下の活動を行った。

1. 小学校課程における学校保健の授業の充実

学校保健の教科書を活用するための教官用ガイドブックを作成し、配布した。

学校保健の授業力を向上するための学校保健研修を 5 回実施した。

教科書を理解しやすくするため、専門用語の用語解説集の作成に取り組んだ。

2. 中学校課程の学校保健コースの開設に向けた準備

中学校課程の 1 年生に予定している科目の講義用テキストを執筆するための会議を 3 回開催し、執筆のスタイルと分担する科目の進捗を確認した。

また、中学校課程で学校保健専攻以外の学生に学校保健の授業を導入することが決まり、1 単位分の教科書の作成に取り組んだ。

3. 学校保健の導入の効果に対する評価研究の実施

学校保健科目を履修する小学校教員養成課程の 4 年生を対象に、事前調査を 2 月、事後調査を 8 月に実施した。データは分析できていない。

学校保健の講義の導入が 2 年過ぎたところで、担当教官に対しインタビュー調査を行った。インタビューのトランスクリプトを作成し、英語に翻訳を行ったが、分析はまだできていない。

4. 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信

朝倉が日本学校保健学会第 69 回学術大会（聖心女子大学）の国際交流委員会企画シンポジウム（2023 年 11 月 12 日）において、「カンボジアにおける学校保健導入の動向と課題—SHCC の取り組みから—」というタイトルで本プロジェクトに関する報告を行った。

上野が同学会（11 月 11 日）において「カンボジアの教員養成系大学生の主観的健康感・健康安全行動・ヘルスリテラシー～性別，経済状況による差の検討～」について発表した。

5. 日本における学校保健研修、MoU 締結セレモニーの実施

第 2 回カンボジア学校保健教官日本研修（2022 年 9 月 21 日から 9 月 30 日）を行った。カンボジア側の参加者は、管理職 4 人、教官 10 人である。

第 2 回カンボジア学校保健教官日本研修の場で、國分学長、川手副学長の出席のもとで、改めて東京学芸大学とプノンペン教員養成大学（PTEC）、バットンバン教員養成大学（BTEC）との MoU の締結セレモニーを行った。

6. 東京学芸大学、カンボジア TEC 間で学生の短期交流（スタディツアー）

東京学芸大学から 2 人の学生がスタディツアー（2024 年 3 月 2 日から 10 日）に参加し、PTEC と BTEC の学生と学校保健をテーマにした交流を行った。

7. 情報発信

ニュースレター 10 号から 15 号まで計 6 回発行した。

プロジェクトの HP を更新し、英語バージョンも準備中である。また、HP を大学の HP にリンクすることができ、大学の HP を通しても本プロジェクトの広報を行っている。

8. 国際学校保健セミナーの実施

秋保さやか氏、甲斐永里氏に講師を依頼して、カンボジアにおける月経教育、栄養教育について学ぶセミナーを行った。

9. KIZUNA の学校保健事業のサポート

コッコン州における KIZUNA の学校保健事業、KIZUNA の日本研修（9 月 7 日から 13 日）において、助言及び講義を行った。

10. TEC における学生保健委員会活動や健康イベントなどの仕掛け

学校保健研修を受けている PTEC の 4 名の教官が、PTEC の「学生教育研究作品展示会」において、学校保健に関する展示を行った。

11. 大学スタッフの充実

雇用の予定であったが、適任が見つからず、充足できなかった。

12. カンボジアオフィスの調整業務

現地においてプロジェクトの活動を展開するにあたり、カンボジアオフィスが調整業務を行った。

13. その他

TEC に昇格することが決まったコンボン・チャム州（8 月 23 日から 25 日）、カンダール州（3 月 13 日）の小学校教員養成校（PTTC）と中学校課程教員養成課程（RTTC）を訪問し、学校保健の授業の実態について聞き取り調査を行った。日系 NGO・FIDR が支援を行っている小学校を訪問し、栄養教育の様子を見学した。

I. 本事業実施の背景と経緯

カンボジア学校保健ポリシー（2006）に、全ての教育機関において保健教育を導入することが明記された。小学校、中学校で保健教科を週1回教えることが求められている。しかし、これまでカンボジアの小学校、中学校では保健を教科として教えられておらず、どのようにして学校における包括的な保健教育を実施するか、だれが教えるのかなど教育体制の整備が大きな課題である。

そこで、プノンペンとバットアンバン教員養成校が4年制の教員養成大学に昇格するにあたり、小学校課程には総合学校保健科目（学校保健）を開設し、中学校課程では学校保健コースが新設されることになった。ところが、教員養成大学では、学校保健を指導できる人材が不在であり、学校保健担当教官を育成する課題が残されていた。また、学校保健のカリキュラム、シラバス、及び講義に使用する教科書もできていなかった。

そのため本プロジェクトは、小学校課程の教員養成で用いるクメール語版の学校保健の教科書を作成し、2022年4月20日より授業を開始できるように、教官に教科書の内容に即したトレーニングを行ってきた。2023年4月からは、2023年3月に教育省により正式に認定されたクメール語版学校保健教科書を使用して2クール目の授業が始まった。

中学校課程の学校保健コース設立に対しては、専門教科25科目、カリキュラムスタディ7科目からなるカリキュラムとそれぞれのシラバスを作成し、教科書の作成に向けて準備をしてきた。本プロジェクトが提案するシラバスと教科書ができ、それらが承認されれば、教員養成大学と教育省で入学定員や募集時期などが協議されることになっている。

II. 本事業の目的

本事業の目的は、プノンペン教員養成大学（PTEC）とバットアンバン教員養成大学（BTEC）において小学校と中学校の教員養成課程における学校保健のカリキュラム、シラバス、教科書を開発し、それらを用いて授業等を担当できる教官の養成・訓練を行うことである。また、用語の統一的理解を図るため、学校保健に関するクメール語版の専門用語の解説を行う用語集を作成することである。

さらに、KIZUNAと協力してコッコン州の中学校の現職教員を対象とした学校保健研修の普及と保健室のモデル事業に取り組むことである。

III. 事業概要

日本財団の助成による「カンボジアにおける保健教員養成事業」は、東京学芸大学がカンボジア教育省との協定に基づき、教員養成大学（PTECとBTEC）の小学校課程の総合学校保健科目（学校保健）の開設と中学校課程学校保健コースの設立を支援するために、カリキュラム、シラバス、教科書の作成、講義を担当する教官のトレーニングを実施するプロジェクトである。そのプロジェクトの一環として、用語の統一的理解を図るため、学校保健に関するクメール語版の専門用語の解説を行う用語集を作成する。

また、KIZUNAと協力して現職教員に学校保健研修の普及と保健室のモデル事業に取り組む。

以上の目的を実現するために有効な関連事業を立案して、日本財団、KIZUNAと連携して実施する。

IV. 2023年の事業目標

2023年の申請時に立てた事業の主要な目標は、1～10の項目である。さらに、11～13の目標を加え

て、事業に取り組んだ。

1. 小学校課程における学校保健の授業の充実をはかる
2. 中学校課程の学校保健コースの開設に向けた準備
3. 学校保健の導入の効果に対する評価研究の実施
4. 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信
5. 日本における学校保健研修
6. 東京学芸大学とカンボジア TEC 間で学生の短期交流
7. HP や Newsletter の発行、カンボジアオフィスを活用して学校保健の展示をするなど、情報を発信
8. 国際学校保健セミナーを継続し、カンボジアをはじめとした途上国の学校保健を学生と共に学ぶ機会づくり
9. KIZUNA の学校保健事業を専門的な見地からサポートする
10. TEC の学生が大学や地域で学校保健活動を推進するように、委員会活動、イベントなどの仕掛けづくり
11. 大学スタッフの充実
12. カンボジアオフィスによる調整業務の遂行
13. その他

V. 2023 年の活動実績

2023 年度に実施した活動の実績は、要約に示した 13 点である。さらに詳しく説明する。

1. 小学校課程における学校保健の授業の充実

2023 年 3 月に MoEYS にハンドオーバーしたクメール語教科書（完成版）を活用するために、教官用ガイドブックを作成、印刷し、教官に配布した。教官は、教科書、教官用ガイドブックを使用して、2 年目の授業の充実を図った。加えて、彼らの保健教育の授業力を向上させるため、研究授業（レッスンスタディ）を取り入れた第 13 回学校保健研修を行った。8 月 8 日はバタンバン教員養成大学（PTEC）（授業者は Mr. Chan Ra）、8 月 9 日はプノンペン教員養成大学（BTEC）（授業者は Ms. Lok Solinda）で実施した。

研究授業を行ったのち、検討会を開いた。BTEC の検討会に先立ち、朝倉から授業研究の目的等について解説する講義を行った。その要点を PTEC のセトセン学長がクメール語でまとめ、全員に telegram で配信し、共有した。その後、教官が司会を務め、まず授業者が自分の授業の意図、工夫等を説明し、自己評価を述べた。それから、全員の教官とマネジメントチームが、授業の良い点、授業の改善点、自分の授業に生かしたい点について意見を述べ、ディスカッションを行った、それぞれの意見は、電子黒板を使って要約的に記述して、可視化し、全員で共有できるように進められていった。

TEC の授業研究会に関する講義「授業を研究すること」の資料、ディスカッションの要点は、<https://drive.google.com/drive/folders/1GcUVDolKn7gcHDgJmK90RPGnczZa4HI5> のフォルダーに保存されている。

次の写真は、BTEC の研究授業の様子、その後の授業研究の協議会の様子である。



Mr. Chan Ra の授業のビデオ記録は以下のフォルダーにある。

https://drive.google.com/drive/folders/1CWUtmSrHNekWgQEUMBWzp0_rmFkjq4_0

下の写真は、PTEC の研究授業の様子、その後の授業研究の協議会の様子である。



Ms. Lok Solinda の授業のビデオ記録は以下のフォルダーにある。

https://drive.google.com/drive/folders/1znVc1eMdfvzOo2aH_4wJSgixIs13QJ

第12回から第16回の学校保健研修の日程の詳細と記録写真は、以下の google drive の該当フォルダーに保存されている。

https://drive.google.com/drive/folders/1RBBIK7nowjH_cDUcxfdT-yoOJ9rnHtkq

教科書を理解しやすくするため、専門用語の用語解説集の作成に取り組んだ。日本語でドラフトを作成しており、全体が出来上がったところで、確認と編集作業を行い、英語翻訳を行って、クメール語の用語解説集に編纂する予定である。用語集のドラフトは、google drive のフォルダーに保存されている。

<https://drive.google.com/drive/folders/1JQhyOtx3HjQaO-grSj7iDBB4gH03UF-C>

2. 中学校課程の学校保健コースの開設に向けた準備（教科書のドラフト作成）

中学校教員養成課程学校保健コースの1年生に予定している科目の講義用テキストを執筆するための会議を3回（8月1日、3日、1月24日）開催し、執筆のスタイルと分担する科目の進捗を確認した。当初の専門科目30単位の案から25単位程度に削減することになったので、主に3年生、4年生の応用的科目を減らし、1年生、2年生の基礎的科目は維持する方向で教科書の執筆作業を行っている。

現在、執筆中の科目は、衛生公衆衛生学1（担当朝倉）、人体の構造と生理（担当青柳）、栄養と健康（担当中村）、小児保健1（担当籠谷、齋藤）、学校保健1（担当齋藤、籠谷）、健康科学（担当物部）、学校安全（担当青柳）である。

基本的な方針は、TECの授業が1コマ50分で、通常2コマ続きで100分授業となっていることから、100分を講義用テキストの単位として、その時間内で教えられる分量に内容を精選すること、さらに講義の形式にグループ討論、対話型の活動、調べ学習等を入れること、である。全体の形式のモデルになるように衛生公衆衛生学の講義要綱を作成中している。作成中の衛生公衆衛生学のドラフトは、<https://drive.google.com/drive/folders/1ybP0fXn79dUUszdwmVwZWTMldajBhNHS> のフォルダーにある。

さらに、学校保健を専門としない中学校教員養成課程の学生用に、学校保健1単位用の講義用テキストを作成することをTECから依頼された。本来、カンボジアの学校保健ポリシーでは、教員養成校、教員養成大学では2単位の健康教育を履修することになっている。TECの単位数の多さから、1単位で実施する教科書が求められたようである。2024年11月の授業開始に間に合わせるべく、小学校課程の教科書を抜粋、編集しつつ、新たに書き加えて作成している。7章構成にする予定であり、5章までドラフトを作成している。作成中の1単位用の学校保健テキストのドラフトは、<https://drive.google.com/drive/folders/1IxqY19YQB0zQe8V9b3rW06DmmzpWPc0n> のフォルダーにある。

3. 学校保健の導入の効果に対する評価研究の実施

学校保健科目を履修する小学校教員養成課程の4年生を対象に、事前調査を2023年2月に行っており、同じ調査票を用いて事後調査をPTECは7月18日(火)、BTECは8月2日(水)に実施した。事前調査のデータを分析中である。さらに、授業後の事後調査は、事前調査と事後調査を、対象者ごとにマッチングして、変化を検討する計画であったが、実施できていない。2024年度に統計的な分析を行う。

学校保健の講義の導入が2年過ぎたところで、担当教官に対しインタビュー調査を行った。インタビューのトランスクリプトの英語翻訳が作成されており、それらを読み込み分析中である。トランスクリ

プトのデータは、以下のドライブに保存されている。これらを質的分析ソフトに取り込み、分析するのが2024年度に残した課題のひとつである。

<https://drive.google.com/drive/folders/1YlZOGLFcy1GLDGpsdPNDLKbsKKsNJj5O>

4. 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信

メルボルンで開催された国際社会学会（6月25日から7月1日）にて、2022年度に行った学生調査を統計的に分析した結果を“The Association between Mental Health and Overall Health, Safety Behavior, and Social Relationships Among University Students in Cambodia”というタイトルで報告した。

朝倉は日本学校保健学会第69回学術大会（聖心女子大学）の国際交流委員会企画シンポジウム（2023年11月12日）において、「カンボジアにおける学校保健導入の動向と課題—SHCCの取り組みから—」というタイトルで本プロジェクトに関する報告を行った。

上野は同学会（11月11日）にて「カンボジアの教員養成系大学生の主観的健康感・健康安全行動・ヘルスリテラシー～性別、経済状況による差の検討～」について発表した。

これらの成果は <https://drive.google.com/drive/folders/1Z3dis2U15YsAUPpQX-lNYZXofM0-TE3y> のフォルダーにある。

5. 日本における学校保健研修

第2回カンボジア学校保健教官日本研修（2023年9月21日から9月30日）を行った。カンボジア側の参加者は、管理職4人、教官9人である。研修の初日には、國分学長、川手副学長の出席のもとで、改めて東京学芸大学とプノンペン教員養成大学(PTEC)、バタンバン教員養成大学(BTEC)とのMoUの締結セレモニーを行った。日本財団から出席をいただき、ご挨拶いただいた。





現職養護教諭 4 名の実践紹介、東京学芸大学養護教育専攻の学生 2 名による大学紹介、東京学芸大学の附属校から、大泉小学校、特別支援学校の見学を行った。さらに、茨城大学附属小学校、横浜市立飯田北いちよう小学校の視察を行った。研修の最終日には、日本財団を訪問し、笹川会長から日本研修修了証を授与していただいた。



全ての関連資料は、以下の google ドライブのフォルダーに保存してある。

https://drive.google.com/drive/folders/17gMrQ5-I59UDacy8N7t1rfRHpKAvhFg_

参加者による研修の毎日の振り返りは、以下のフォルダーにある。

<https://drive.google.com/drive/folders/1SqyM2vSWUAi4OBqy1r0UAQPZvBJIDueF>

6. 東京学芸大学とカンボジア TEC 間で学生の短期交流

東京学芸大学の学生 2 名（養護教育専攻 2 年生）が、カンボジアに渡航し PTEC と BTEC の学生と学校保健、社会、文化、歴史の分野において学習と交流を行った。その成果は、年度を跨いだ 4 月 19 日にハイブリッドで開催した。

児童に手洗い指導を行うという学校保健分野での交流を行った BTEC の学生の感想を挙げておく。

- I think the activity that prepared by TGU Students was really important for children to learn about taking care of themselves and let them know how to clean their hands properly.
- I think this program is good and give me a lot of experiences, also it makes me have a good collaboration with other regions.

- The program provides me a good experience. I can have a good communication with Japanese students. Moreover, this program gives me an opportunity to learn about Japanese culture and we can learn a lot from each other.
- I think that this activity was good for me to have an experience with Japanese students, especially kids in primary school have a chance to learn about how to clean the hands correctly.
- It's a good opportunity for me to exchange knowledge, get experience, and make communication.
- Easy to understand and well prepared. That was such a good time and got new experience working with TGU Students.





7. HP や Newsletter の発行などによる情報発信

HP を東京学芸大学の HP と連結をさせ、更新を行った。HP のアドレスは、<https://shcc.u-gakugei.ac.jp/>である。英語版も準備を進めている。

カンボジア学校保健事業について

日本財団の助成による「カンボジアの全ての子どもたちのための学校保健サービス創生事業」は、2020年、カンボジア教育青年スポーツ省と東京学芸大学の間でMoUを締結し、開始されました。本事業は、カンボジア政府から、教科書作成と教員研修等に関わる事業について正式な認可を得て、プノンペンとバタンバンにある教員養成大学の小学校課程における総合学校保健科目(2単位)のシラバス・教科書の作成、学校保健科目を担当する教員を対象とした研修に取り組んでいます。

また、カンボジアの教育省は、教員養成大学の中学校教員養成課程に、学校保健を担当する教員の養成コースを開設する計画を立てており、本事業では、この中学校教員養成課程の学校保健コースのシラバスと教科書の作成も支援しています。

さらに、現在小中学校で働いている日本財団の奨学生を核とし、NGO KIZUNAが行っている、現職教員を対象とした学校保健研修の普及と保健室のモデル事業の構築を支援しています。

詳細は、下記のボタンから、活動ページをご覧ください。

カンボジア学校保健事業の活動



また、Facebook<https://www.facebook.com/shcc.project>を通して、活動情報、ニュースレターの配信を行っている。

ニュースレターは、第10号(4月発行)、第11号(6月発行)、第12号(7月発行)、第13号(10月発行)、第14号(11月発行)、第15号(2024年1月発行)の6号を発行した。それらは、<https://drive.google.com/drive/folders/1YF74yDroNz7wTvUTxxfdQe9W67mfmgG0>に保存してある。

文教ニュース第2755号に、2023年3月にカンボジアでPTECとBTECとの大学間協定を締結

した旨のニュースを寄稿した。

東京学芸大、カンボジアの

教員養成大学2校と大学間協定締結



(左から)プノンベン教員養成大学長、朝倉特命教授、バットバン教員養成大学長

東京学芸大学と、カンボジアのプノンベン教員養成大学およびバットバン教員養成大学との大学間協定締結式が3月23日に挙行された。東京学芸大学は、2020年より「カンボジア学校保健サービスクリエーション」を開始し、カンボジアの教員養成大学における学校保健授業の支援に取り組んでおり、カンボジアにおいて首都プノンペンと、地方のバットバン州に初めて設立された4年制の教員養成大学である両校と同事業を推進し、今後の大学間の連携体制をより促進していくことを目的に、今回協定が締結された。2校にとっては初の大学間協定締結という。

締結式では、事業リーダーである学芸大の朝倉隆司特命教授より、大学間協定に至った経緯や協定の具体的な内容についての説明と、国分充学長より、ビデオメッセージで協定締結に向けての期待が述べられた。また、プノンベン教員養成大学とバットバン教員養成大学の両学長からも、協定締結に対する感謝の言葉と今後の両大学での研究活動に対する支援の要望が述べられた。

締結式では、プノンベン・バットバン両大学の学生らによる伝統舞踊や劇のパフォーマンス等も行われ、オンラインで東京学芸大学の学生も参加し、両国学生との交流が持たれた。今後、同事業を通して、大学での学校保健授業の支援のみならず、大学間学生の短期派遣・交流活動、共同研究の実施など、さまざまな協働が期待される。

8. 国際学校保健セミナーの開催

6月7日に秋保さやか氏（九州産業大学国際文化学部講師）、12月12日に甲斐永里氏（FIDR カンボジア事務所栄養専門家）に講師を依頼して、それぞれカンボジアにおける月経教育、栄養教育について学ぶセミナーを行った。

秋保氏の講演の記録は、以下の google ドライブから視聴することができる。

<https://drive.google.com/drive/folders/1SPHqNuRW7KmyMYFuR4HlpoxRf5vCcNQq>

また、甲斐氏の講演記録は、

https://drive.google.com/drive/folders/1NTONKsCH3Iamlirf_g1pAzStGM1ObbCH で視聴することができる。

9. KIZUNA の学校保健事業のサポート

KIZUNA の学校保健事業では、モニタリングの評価項目に対する助言を行った。また、長崎と東京で行った日本研修（9月7日から13日）に同行し、東京学芸大学における研修では、環境保健に関する講義を行った。

10. TEC における学生保健委員会活動や健康イベントなどの仕掛け

学校保健研修を受けている PTEC の複数の教官（Chamroen 先生、Solinda 先生、Rithsya 先生、Khim 先生）が、学校保健の講義を受けた学生と協働して、「学生教育研究作品展示会」（2023 年 7 月、PTEC 体育館）において学校保健に関する展示を行った。



ការដ្ឋានការស្រាវជ្រាវស្តីពីការវាស់ស្ទង់ BMI
លើស្ថានភាពកាយវិការ BMI (Body Mass Index)
 ប្រធានការងារ: ប្រាស់, លុក សុខាភិបាល, កុំ វិទ្យាសាស្ត្រ
 ថ្នាក់ E4 ថ្នាក់ទី ៤ ឆ្នាំទី ២ ឯកទេស បរិស្ថាន
 គ្រូបង្រៀន: ហ៊ុន ស៊ីតាម, កាស, ជិត សុខាភិបាល, សារាម ឈៀង, សុយ ពន្លក

បញ្ហាសំខាន់ៗ

- ការយល់ដឹងទៅលើស្ថានភាពកាយវិការ
- ជួយតាមដានបញ្ហាស្ថានភាពកាយវិការ
- ចេះវិធីវាស់ស្ថានភាពកាយវិការបានត្រឹមត្រូវ

និយមន័យ

សន្ទស្សន៍មាសភាពកាយវិការ BMI (Body Mass Index) គឺជាសូចនាករសម្រាប់វាស់ស្ទង់ស្ថានភាពកាយវិការ។

BMI	ស្ថានភាព អាហារូបត្ថម្ភ
ក្រោម 18.5	ទម្ងន់
18.5 – 24.9	ទម្ងន់ធម្មតា
25.0 – 29.9	មើម៉ាតាក់កាយធំត្រង់
30.0 – 34.9	ធំត្រង់កម្រិត ១
35.0 – 39.9	ធំត្រង់កម្រិត ២
40.0 ឡើង	ធំត្រង់កម្រិត ៣

សន្និដ្ឋាន : BMI គឺជាការគណនាមួយដែលឱ្យដឹងពីស្ថានភាពកាយវិការនៅពេលដែលជួបបញ្ហាដូចជា៖

- កង្វះទម្ងន់ចំនួនក្រោម 18.5 kg/m^2 គឺជាការបង្ហាញថាជួបបញ្ហាកង្វះអាហារូបត្ថម្ភ ដើម្បីទ្រទ្រង់កាយ
- លើសទម្ងន់ចំនួនលើ $25-30 \text{ kg/m}^2$ គឺជាការបង្ហាញថាកាយវិការយើងកំពុងជួបបញ្ហាលើសទម្ងន់ ដែលជាហានិភ័យប្រឈមមុខជាមួយនិងជំងឺផ្សេងៗដូចជា៖ ទឹកនោមផ្អែម, ជំងឺបេះដូង និងសរសៃឈាម.....។

ការណែនាំ : ការណែនាំសំខាន់ៗទម្ងន់លើសទម្ងន់ ឬកង្វះទម្ងន់ គឺជាសញ្ញាដែលបង្ហាញពីការស្រាវជ្រាវដូចជា៖ ការហាត់ប្រាណជាប្រចាំ ការបរិភោគអាហារ ផ្លាស់ប្តូរទម្ងន់កាយវិការ កាត់បន្ថយការបរិភោគអាហារដែលមានជាតិខ្ពស់ ការផឹកទឹក, ជាពិសេសជួបបញ្ហាជាមួយគ្រូបង្រៀនឱ្យដឹងពីស្ថានភាពកាយវិការក្នុងថ្ងៃ។

ឯកសារយោង: ក្រសួងអប់រំ យុវជន និង កីឡា (២០២៣), ស្ថានភាពសិក្សាសម្រាប់ទាំងអស់គ្នា.



11. 大学スタッフの充実

雇用の予定であったが、適任者が見つからなかった。

12. カンボジアオフィスの調整業務

現地においてプロジェクトの活動を展開するにあたり、カンボジアオフィスが全般的な調整業務を行った。

主に、TEC との調整において、学校保健担当教官の学校保健研修、学校保健担当教官の学校保健日本研修、学校保健授業を受講する学生の健康行動(base-line, end-line)調査の実施、学校保健担当教官へのインタビュー調査等に関する業務が多岐に渡った。また、東京学芸大学内とオンラインのハイブリッドで開催する国際学校保健の勉強会の講師候補者との交渉や、東京学芸大学学生のスタ

ディツァーといったコーディネーション業務、ニュースレターの発行、プロジェクトの HP 作成といった広報業務のサポートも行なった。KIZUNA への専門的技術協力においては、保健室マニュアルの作成、現地中学校でのモニタリング指標の作成において SHCC で活動している専門家との調整に従事した。さらに、SHCC で 3 年間学校保健研修を受講した PTEC の学校保健担当教官 3 名を、KIZUNA の学校保健研修においてトレーナーとして活動するサポートをしている。各業務において PTEC と BTEC、MoEYS、KIZUNA などカンボジアの主要な機関・団体及び個人と東京学芸大学との間で、複雑な調整業務を行い、2023 年度の本プロジェクトの目標達成を支えてきた。

13. その他

TEC に昇格することが決まったコンボン・チャム州（8 月 23 日から 25 日）、カンダール州（3 月 13 日）の小学校教員養成校（PTTC）と中学校課程教員養成課程（RTTC）を訪問し、学校保健の授業の実態について聞き取り調査を行った。日系 NGO・FIDR が支援を行っている小学校を訪問し、栄養教育の様子を見学した。

当初、3 月 14 日に学校保健の授業をまだ受けていない PTEC の 3 年生対象に、日本の 3 名の教授（齋藤教授、中村教授、物部教授）が講義をする予定であった。しかし、PTEC の教育実習時期がずれ込んだため、実現できなかった。その代わりとして、附属小学校の教員を対象に、健康とは、栄養と健康、身体活動と健康について、それぞれ 30 分から 40 分程度の講義を行った。

TEC は、附属学校との連携を MoEYS から強く指導されており、PTEC と BTEC は附属学校への学校保健の授業を導入するための支援を SHCC に要請している。学校保健の講義を受けて卒業した優秀な卒業生が附属学校に配属されており、彼らを中心に保健の授業を実施することができるように、教員への学校保健研修を SHCC に期待している。そのような背景があり、今回講義を実施することとなった。

VI. 2023 年度の主な活動の総括と 2024 年度の課題

今年度の事業では、学校保健研修等による小学校課程における学校保健の充実、日本における学校保健研修、東京学芸大学とカンボジア TEC 間で学生の短期交流、HP や Newsletter の発行などによる情報発信、KIZUNA の学校保健事業のサポート、カンボジアオフィスの調整業務に関しては、おおむね目標としていた活動を行うことができた。

一方で、中学校課程の学校保健コースの開設に向けた準備では、1 年生に設定した科目のドラフトを上げることを目標に行ってきたが、進捗が遅れている。調整会議を定期的に行い、2024 年 9 月を目標に日本語のドラフトを仕上げるように進める。また、中学校課程の学校保健コース以外の学生を対象とする学校保健科目の教科書作成に取り組むことになったが、2023 年度中には完成させられなかった。2024 年 7 月末を目標に英語版を仕上げる。

学校保健の導入の効果に対する評価研究、本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信については、学校保健研修と教科書の作成を優先しており、分析に十分取り組めていない。学校保健の授業が学生にどのように影響しているのか、担当教官の意識にどのような変化をもたらしたか、2024 年度に分析して明らかにする。その結果を、学術的成果等として発信していくのが課題である。

国際学校保健セミナーの開催の回数が、2023 年度は少なかった。今年度はより多くの専門家や

活動家を招き、講演の機会を増やしたい。

TEC における学生保健委員会活動や健康イベントなどの仕掛けでは、本プロジェクトで積極的に支援したわけではないが、PTEC では学長のリーダーシップのもとで、学校保健研修に参加している教官と講義を受けた学生が協働して学校保健で学習した内容を踏まえた展示を行っていた。このような活動を積極的に行うように、PTEC のみならず BTEC にも働きかける。2024 年度は、SHCC からイベントにメンバーを派遣して、内容をしっかりと把握していき、ニュースレター等で発信していく。

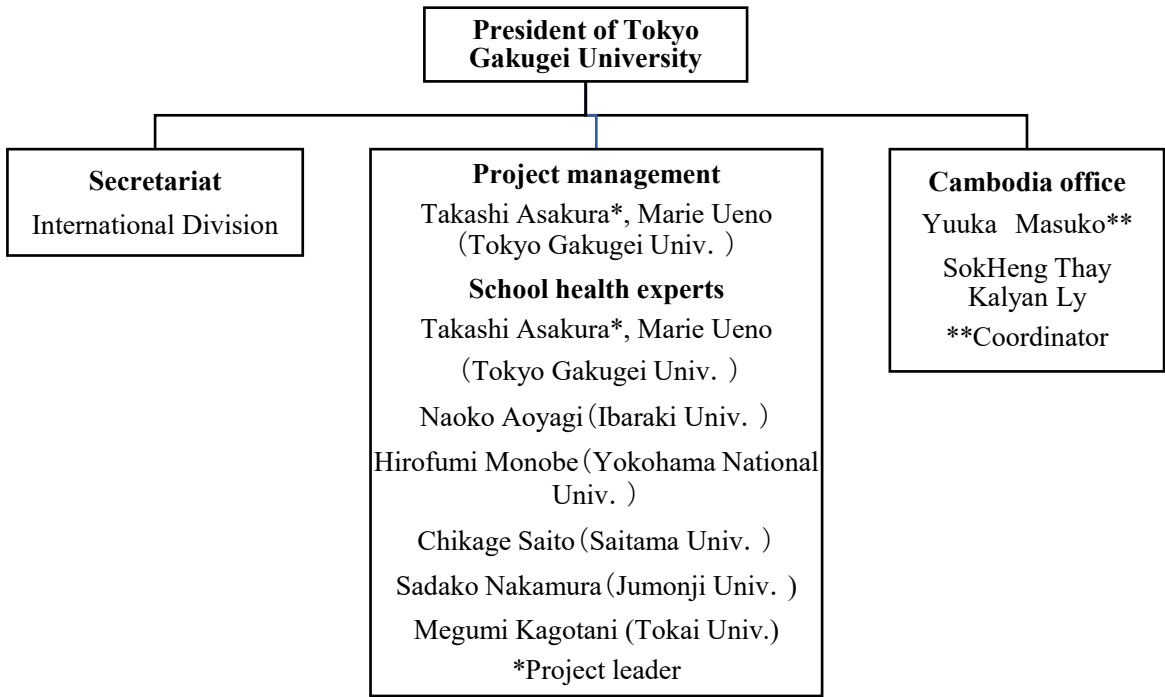
VII. 2024 年度事業の主な計画

2023 年度の実績と課題を踏まえて、2024 年度は以下の 12 点を事業の目標とする。

- ① 小学校課程用の教科書の改訂作業と学校保健研修の継続
- ② 中学校課程の 1 年目に予定している 12 科目の講義用の教科書（日本語版）作成し、順次英語に翻訳
- ③ 中学校課程の学校保健コース以外の学生用に 1 単位分の学校保健の教科書を作成する
- ④ 学校保健の導入の効果に対する評価研究（学生調査と教官インタビューの分析、卒業生のフォローアップなど）
- ⑤ 本事業で得た学生調査等の成果に関する学術的発信（TEC 教官と協働する）
- ⑥ 日本における学校保健研修
- ⑦ 東京学芸大学の学生のスタディツアー
- ⑧ HP や Newsletter の発行、TEC の Health room を活用して健康情報を発信
- ⑨ 国際学校保健セミナーの継続
- ⑩ KIZUNA の学校保健事業のサポート
- ⑪ TEC の学校保健活動のサポート
- ⑫ TEC への昇格が予定されているカンダール州とコンボン・チャム州の教員養成校の現状調査、その他の州の教員養成校における学校保健の授業の現状調査

VIII. プロジェクトの組織図

2023 年度の事業を実施したプロジェクトメンバーの組織図である。



IX. プロジェクトの決算報告

別紙収支簿（資料）のとおり。